

イギリス公文書館の機密文書FCO31 ウガンダ元大統領代行、故オボス=オフンビの遺品(Ⅱ)

梅屋 潔*

The National Archives Confidential Document FCO31: Relics of the late Oboth-Ofumbi (1924-1977) Part Ⅱ

UMEYA Kiyoshi

Abstract

In volume 21 of this journal, I reported on the album during the trip to the United Kingdom among the relics left in the residence of Arphaxad Charles Kole Oboth-Ofumbi(1932-1977), a former Ugandan minister under Idi Amin's regime. This article is a continuation of the report concerning confidential document FCO31 concerning this official visit, which is stored in The National Archives (United Kingdom). As a result of examination of this document, it was possible to support the material covered in the previous paper, correct the mistakes in it and obtain accurate information on relics not introduced yet. Upon comparison of the document with historical facts, ironic facts were also discovered. The document consistently holds the position that the purchase of weapons was not realistic given the harsh economic situation of Uganda at the time, yet historically, a large number of weapons was subsequently supplied from the United Kingdom to Uganda. From the description of the difficult diplomatic negotiations, the typical post-colonial situation of attempting to dominate a country in the form of debt while not allowing it to go bankrupt can be observed. There will likely be much to gain from the careful reconstruction of Ugandan modern history through comparison of these artifacts with other materials.

Keywords : The National Archives, Uganda, Amin's Regime, Official visit of Oboth-Ofumbi, Relics of Oboth-Ofumbi

*神戸大学国際文化学研究科教授／ケープタウン大学人文学部客員教授／東北学院大学人間情報学研究所客員研究員
Kobe University／University of Cape Town／Tohoku Gakuin University
umeyakiyoshi@gmail.com

はじめに

私は本誌第21巻で、ウガンダ、アミン政権時の大臣、アルファクサド・チャールズ・コレ・オボス＝オフンビ（Arphaxad Charles Kole Oboth-Ofumbi 1932-1977）の邸宅に残る遺品の存在について報告し、なかでも英国外遊時のアルバムについて報告した（梅屋 2016a）。本稿はその続編として、その後の研究の進捗について報告するものである。その前後の拙稿（梅屋 2011, 2018: 519-565, Umeya 2019b）で、遺品整理の経緯について詳しく紹介してあるのでここでは繰り返さない¹。

2016年の拙稿は、オボス＝オフンビ邸で貸し出しが認められた16ミリ・フィルム（以下前稿にひきつづきFI）とアルバム（同じくAI）をもとに、1971年のオボス＝オフンビのイギリス外遊の模様を再現したものである。

その後、イギリスの公文書館（The National Archives）での調査で、この公式訪問に対するイギリス側の機密文書を複写することができた。この文書の所在は、ウェブページの検索機能でも調べることができる²。

文書は、2003年1月1日から開示されているが、電子化はされておらず、閲覧には、文書館（Kew, Richmond, Surrey, TW9 4DU）に足を運ぶか、複写依頼をする必要がある。数十分の待ち時間ののちに、指定ロッカーを通じて貸し出されたのが、FCO31とファイルの整理番号のついたファイルだった。

I ドキュメントFCO31

その文書は、ファイルナンバー JEU22/2 改め FCO31/1423とある（図1）。FCOは、Records of the Foreign and Commonwealth Office and predecessorsの意味で、外務・英連邦省と訳される。連邦府の外国記録ということになるだろう（以下FCOと記載）。「2003年まで開示せず。Visit of Ugandan Minister of Defence to UK」との記載がある。

まずすぐ気づいたことは、前稿（梅屋 2016a）で考えていた時期の間違いで、この公式訪問は1971年ではなく1972年であったということである。前稿執筆の2015年の時点では、私はクーデターの直後にこの公式訪問がなされたものと考えていた。しかしながら後に詳しく見るように、この訪問はアミン大統領からエリザベス女王への親書を携えてのものであり、それは、ウガンダ独立10年を祝うための式典にエリザベス女王自身の渡航を求めるものだったのである。

ゆくゆくは、すべての資料が細かい検討の対象になりうるだろうが、ここでは、このファイルの興味深い内容を拾っていく。資料の対照の便宜のために、手元の写真資料番号（IMG_1796～1882）を文書に添えて対照の手掛かりとしておく。

1 最終部分の手紙数点

こうしたファイルは後から追加されたものが表紙に近い場所に来るので、時系列的に見れば最初の文書が最後の状況について語っていることになる³。

¹ また、遺品に限らず、オボス＝オフンビ一般については梅屋（2018）、Umeya（2019a, b, 2020）参照。

² The National Archives
<https://www.nationalarchives.gov.uk/> [2019年10月31日閲覧]

³ この意味では、一時期世間を席卷した「超整理法」の一部は、かなり普遍的な官僚の文書整理方法であることが確認できる（野口 1993）。

ファイルを開くと、最初の数枚、手書きの解読の困難な文書が綴じられ(図2~4)、一部には、数字で㉓~㉔と番号がふられているものもある。そのひとまとまりの最後に、オボス=オフンビからの手紙が添えられているのである(IMG_1798~IMG_1805)。

(1) オボス=オフンビからブリンド氏 (Mr Brind) に宛てた礼状 IMG_1806 (図5)

「

Ministry of Defence
P.O.Box 3798,
Kampala, Uganda

CP.20/8

10th February, 1972

H.E.A.H. Brind,
Deputy British High Commissioner
P.O.Box 7070,
Kampala

Your Excellency,

I would be most grateful if Your Excellency would kindly convey my sincere thanks to Her Majesty's Government for the excellent arrangement they made for my recent visit to Britain. My delegation and I were very well looked after and we thoroughly enjoyed our visit.

Please convey my special thanks to Lord Carrington, Lord Balniel, Lord Lothian, Mr. Ian Gilmour and Mr. Anthony Royle for the very cordial discussions I had with each of them.

I am most grateful also to the Guard Commander and his team for the very impressive Guard of Honour they organized in my honour on my arrival at the Ministry of Defence on Tuesday, 11th January, 1972.

Yours sincerely,

サイン

(A.C.K. Oboth-Ofumbi)

MINISTER OF DEFENCE

」

その文面から察するに、オボス=オフンビからの手紙は、公式訪問への感謝であり、そこに添えられた手紙は、その後の対応を相談するものようだ。詳細な分析は歴史家に任せるとしても、「(オボス=オフンビからすでに) 感謝するとの言葉があるのだから、これ以上何か行動を起こす必要がありますか」というように読める。手紙の冒頭は、オボス=オフンビの妻がロンドンの医療機関にかかった時のことに言及しているので、その対応も含めてのことであろう。

2 大臣帰国後の訪問を総括する一連の文書

(1) ㉔文書 IMG_1810~1813 2月2日づけ

㉔と後から書かれたらしい「機密」(confidential)文書の日付は、1972年2月2日。ウガンダの債務と融資、そして武器の販売に関する会議の会場が確保できなかったため、会場を変更する旨の手紙。変更後の会場はE102 会議室、日時は2月9日午後3時からとなった。宛名はMr. Dawbarn 差出人は、東アフリカ部 (East African Department) のG.A. Duggan、同報は、Mr. Tesh, Mr. Pooley, Mr. Willson EPD, Miss J Maddok (IMG_1809)。

③の文書の日付は、1972年1月27日。レターカバーは、Defence Sales Organisation⁴のもので、差出人は、Mr. Anderson Assistant under Secretaryとある。Visit of Mr Aboth [sic] Ofumbi Minister of State for Defence Ugandaと題するものである。

「私たちは、オフンビ氏の最近の訪問に際し、以下の行動をとることにした」として、以下のパラグラフには番号がふられている。

「2 帰国前の短い打ち上げの会議で、この訪問の満足度を高め、なお、最初にあったときに彼が表明していた武器の必要性についての考えが変わっているかどうかを見極める」としている。最初に彼が提示していた「ショッピングリスト」は、以下のようなものであった。

- ・ Alvis社のサラディン20台とサラセン6台⁵。
- ・ Racal社の航空用無線機器。
- ・ Marconi & Plessey社の、対空レーダーと、対地上用レーダー（固定1台または2台、移動可能なもの2台または3台）。
- ・ Brooke MarineあるいはVosper社のパトロールクラフト（ボート）、大6台、小12台。
- ・ ヴィジラント（Vigilant）対戦車ミサイル⁶。
- ・ Racal社の通信機器（携帯用及び司令部設置用）。
- ・ Millbank Technical Servicesの制服を含めた

⁴ 1966年に国防省次官であったDenis Healeyにより創設された組織。1985年にthe Defence Export Services Organisation (DESO) と改名された。人権問題や武器輸出に反対するNGOらの運動で、2007年に閉鎖。

⁵ サラディン（FV601 Saladin）は、イギリスのアルヴィス社で開発された偵察を得意とする装輪装甲車。サラセン（FV603 Saracen）は6輪式装甲兵員輸送車。なおサラセンもサラディンも、イスラーム系の命名であるところが示唆深い。

⁶ 携行型可視光軽対戦車ミサイル（VIGILANT: Visually Guided Infantry Light Anti-Tank missile）。

・ Incotes経由のBedfords 石油や水を運搬するタンカーと、軽量重量の装甲回収車。

各メーカーと英国からのそれぞれの装備の操作方法についてのトレーニング。

「3 会議の間に、私たちはずっと、資金の問題が不明確だと強調し続けた。

というのも、彼の持ってきたエリザベス女王宛ての大統領書簡でもウガンダの経済危機について述べられており、借款の繰り延べの可能性について要望されている。厳しい財政状況では新たに武器を購入するほどの融資を得ることが難しいだろうということは明らかだ。オフンビ氏はこのディレンマを認識していたが、解決策は何一つ示さなかった。ウガンダは、外部からの侵攻を防ぐため全方位の守りを固める必要があり、この本質的な必要に関して英国の共感と、助力を求めるばかりであった。

4 この問題は、当部署 (Defence Sales Organisation) では解決できない。私たちは、注意深く、イギリスの契約相手は、財政状況に対して幻想を抱いていないという事実を指摘しつつも、ウガンダ人にとって盲点である、イギリスから武器購入のための借款を得る望みはないだろうということを指摘することは控えてきたが、もはや、私たちにとっては避けて通れない論点だ。

5 彼らが武器を買えるように、ウガンダに対して援助が得られるというような政治的な望みについて協議するのは我々の本分ではない。我々が言えるのは彼らのリストが、もし実現すれば防衛に現実的なものであるということである。ハリアー⁷のような最新鋭機材を装備しよ

⁷ ホーカー・シドレーハリアー（Hawker Siddeley Harrier）は、英国のホーカー・シドレー社が開発した垂直離着陸機（VTOL機）。

うとするような考えから、彼らのショッピングリストはより考えられたものになったといっている。

6 ウガンダのこの後の活動に一定の影響を与え続けたいならば、現在必要とする武器のリストが、実現するようにできるだけのことをするべきだという議論がありうる。というのも、そうしなければ、彼らはよそからそれを手に入れるだけであり、ウガンダの対外債務の改善に対しても何の貢献にもならないからである。

7 ウガンダからの注文は何であれ現在は英国産業にとって歓迎すべきものであるといっている。特にレーダーは、そうである。電子産業は近年頭打ちであるが、関連利益は、1千万ポンドに及ぶとみられる。

8 この手紙の写しは、Clive Rose と、Lee Treasury Chapman ECGDと英国の部署に送っている。会議で我々がどうするべきかを考えていただきたいからである。

(自署) あなたの親愛なる Reg. アンダーソン…」

(2) 機密文書⑩ IMG_1814~1815 1月25日づけ

⑩と書かれた機密文書は、もともとの文書コードはJEU22/2とある。Foreign and Commonwealth Officeのカバーレターで、1972年1月27日付、宛名はA.H. Brind Esq. Kampala、差出人は、東アフリカ部のGADugganである。

表題は、「ウガンダ国防相の訪問」。以下に概要を紹介する。

「1月21日付のメモで(⑨と手書きで後から記載)、私は防衛相の販売部門と一緒に出席した会議で、オボス=オフンビの活動について議論した際のいくつかの要点についてお送りしたと

ころだ。

2 オボス=オフンビは、かなり多くの兵器の購入に興味を示している。主なものは、

サラディン20台。

サラセン6台。

MarconiとPlesseyのレーダー一式。

パトロールクラフト(船)大6、小12艘。

ヴィジラント(地上設置の対戦車ミサイル)。

Racalの通信機器。

である。

3 もっとこれ以上の機器装備にも一般的な関心を示されたようで、MOD販売部門の試算では、購入検討も含めると1千万ポンドから2千万ポンドにもなるという。

4 大臣のコメントで良識がうかがわれたのは、ハリアーについては「あまりに高額でありあまりに最新鋭だ」として、購入を考えなかったことである。しかし、戦闘機は依然としてショッピングリストに入っている。

5 Simon Dawbarnが、1月13日の手紙(⑤と手書きで後から記載)で述べるように、私たちはオボス=オフンビ滞在の間、最大限、ウガンダの経済的な困難について全員の注意を喚起してきた。アミン大統領の書簡の内容が伝わってからはすぐに、MOD販売部にもウガンダが債務繰り延べ要求をしていることについて注意してきた。MOD販売部は、もともとの販売方針からしても、これまでは友好的な立場をとり続けてきたが、それもここまでかもしれない。

6 オボス=オフンビには、この国防機器購入についての経済的な打開策は全くないことは明白だ。彼は3月までにできるだけの手を打つと言っているが、ウガンダの問題は今後2年間以上は続く完全に内政の問題であり、彼が帰国して(大統領に)持ち帰るべき問題である。この

困難の程度が、ウガンダが兵器を購入できるかどうかを規定する。

7 大臣の活動は、特に広報していないが、避けがたくいくらかの情報は外に出ている。添付した本日の「デイリー・テレグラフ」では、大臣が工場を訪問したことが報じられ、残念なことに、彼の訪問はウガンダがタンザニアに対しての防衛のために訪問したとされている。大臣自身がそのような言葉で記者に語ったのかもしれない。

8 ご存じのように、大臣が将来的にこの兵器購入を進めようとするならば、高等弁務官事務所（High Commission）を通さなければならぬ。ウガンダ人たちは、Crown Agents⁸が彼らの注文を優先してくれないことについて何らかの感想を持ったようだ。彼らはそうしてもらうことに正当性を感じているようである。私は問題の本質をまとめてウガンダ人たちの注文が現実的にCrown Agentsにとって受け入れられないものであることを示した。しかし、私はこの手続きは現在のところ妥当だと考えているだけで、片目だけ開けて、あるかもしれない注文を待つ余地はあると考えている。」

(3) デイリー・テレグラフ紙の切り抜き IMG 1816 1月27日づけ

「ウガンダ、英国製の船とミサイルを。

国防省関係筋によれば、ウガンダは、英国の対戦車対戦闘機ミサイル、高速巡視艇と装甲車を購入しようとしているようだ。タンザニアが

⁸ Crown Agentsは、現在は民営化され、英国に拠点を置く国際開発企業だが、当時は政府の下にあった公的な組織だった。開発援助などを目的とした主に公的なプロジェクトの物資、サービスの調達代行などを行う。いわゆる政府系ファンドとよばれるソブリン・ウェルス・ファンドを世界で最初に運用したのもCrown Agentsであった。

中国から巡視艇を購入したことによってこうした関心が高まったものとみられる。中国は、戦闘パイロットの訓練も行っているといわれる。

先週、ウガンダ国防相、オフンベ [sic] が、British Aircraft Cooperationを訪問し、案内されて兵器を見学し、Vospersで、巡視艇を見学した。この種の注文は、数百万ポンドにも上るとみられる。

巡視艇はヴィクトリア湖での使用を想定したもの。対戦車兵器は、どのような車両にも搭載可能で、対空ミサイルは5人乗り組んだランドローバーであれば搭載できる。ウガンダ＝タンザニア間国境の戦闘は、11月に集結したもののアミン将軍は依然として8,500ともいわれる兵力をさらに増強したい考え。」1972年1月27日。

(4) 機密文書^⑩ IMG 1817～1821 1月20日づけ

⑩の文書は、以下に同報されたかなり正式なものである。

「PS/Secretary of State for Defence
PS/Minister of State, Defence Production
Sec/ CDS
Sec/ Controller
HDS
MD/HDS
AMD/HDS
AUS(S)
Hd of DS13
D Sales 2
F & CO- E African Dept
ECGD

ウガンダ国防大臣、ACKオボス＝オフンベ閣下の訪問について

1月11日(火)から20日(木)まで、広範囲にわ

たる工場見学を実施した。MODの渉外担当係官と政府接待担当とともにプログラムは計画され、政府の接待費によって配置された、Frank Adams氏が随行した。訪問の全日程に、防衛機器販売担当官が大臣に同行した。AUS(S)との予備的な会議は、Defence Council Suiteで1月12日に行われ、そこで大臣が特に英国の防衛機器に関心を持っていることがわかり、最終的なプログラムが決定された。いくつかの場合には直前の連絡となった。訪問できなかった工場の代表者は、プログラム外のものとして、大臣滞在のSavoy Hotelのスイートなどで面会が行われた。

訪問した工場は、Racalと、ブラックネルでは、Racal Mobical、レーディングではMarconi Radar、チェルムスフォードでは、British Aircraft Cooperation、Guided Weapon Division、ステイーブニッジでは、Hawker Siddley Dynamics、ハットフィールドでは、Brooke Marine ローストフトでは、Plessey Radar、ワイト島では、Vosper Thornycroft、サザンプトンでは Alvis (ワーキング・ランチをGrosvenor Houseで) を訪問した。Crown AgentsとMillbank Technical Serviceの代表も会議をした。AD Sales 2も、最近カンパラから帰国したばかりの頭取を交えて、23フェンチャーチ通りの、National and Grindlays銀行の幹部と会議をした。この会議の様子は別に記載する。

1月20日にAUS(S)主催で大臣を囲んでの打ち上げ会議がDefence Council Suiteで行われた。その席で大臣は、以下を選んだ。国防大臣および工場関係者におかれては、今後のために承知しておいていただきたい。

Alvis Ltd

大臣は、サラディン20台と、サラセン6台が欲しいという。Racalによって922無線が設置されたもの。

Marconi and Plessey

二つの工場はすばらしい機器のデモンストラーションをした。1台か2台の固定レーダーをPlesseyから、2台から3台の移動式のレーダーをMarconiのものを組み合わせて、防空と航空機の管制目的に選びたいと述べた。システムとしては、地対地、地対空の必要な交信ができないと意味がない。ウガンダ国防省は、カンパラの高等弁務官 (British High Commission) を通して必要の詳細について知らせるとのこと。Plessey Radarはすでにウガンダより、固定されたものを中心とした防空システムを依頼されていた。必要ならば、移動式のものも補完するべきだとのことである。大臣は、二つの組み合わせが希望であり、移動式はMarconi Mobile社製が望ましいと表明した。

Brooke Marine and Vosper Thornycroft

Brooke Marineがウガンダ政府とすでにヴィクトリア湖その他の河川で用いる巡視艇について交渉していることは知られていた。この機会に、ウガンダ国防省にグラスファイバー製のKeith Nelson艇を含む、より広範な型の巡視艇を紹介することができた。Keith Nelsonは現在Vosper Thornycroft社の組織下にある。大臣の希望は、大型6艘と、34フィートから70フィート迄の小型12艘である。この問題はさらに検討して最終的な要望を出されるはずである。議論にもならず、大臣側からも言及されなかったが、もちろん、通信、メンテナンスそして修理そして補給など、沿岸部で船舶を管制する機器は必要である。

船舶を組み立ててヴィクトリア湖やその他の河川に運搬するにはどうすべきかという困難な問題が確実にあるので、そのことは十分考慮したうえで要望するようにウガンダ側には伝えてある。

British Aircraft Corporation (Guided Weapons) Stevenage, and Hawker Siddeley Dynamics, Hatfield

この範囲の兵器は大臣に見せられたが、大臣は、選択肢から外した。修理が非常に高額で、SRAAM⁹は1975年までは、利用できないからである。むしろ手始めとしてはヴィジラント対戦車ミサイルが望ましいとのことで、国防省に工場と協力しつつ量と配置についての推奨値を作成させるよう命令した。

Racal (通信機器)

約500万ポンド相当の機器はすでに出荷され、支払われている。大臣からは、人が携行する無線機器については大変評価するもののその重さについての苦情があった。Racalは、技術者を一人ウガンダ各地に派遣して様々な場所で機器のチェックをさせている。販売部門の代表者が2月にウガンダを訪問して兵力強化についての機器の詳細について協議する予定である。

Millbank Technical Services

大臣に随行したスタッフ官僚（補給担当将校、モンドー少佐）がMTSを訪問し、補給用倉庫のたくさんの物品について協議し、AUS(S)はカンパラの大臣あてのDove氏の手紙を渡したので返事を待っているところである。

Crown Agents

大臣は、Crown Agentの提供したサービスについては不満を表明した。いくつかの苦情につ

いて代表者が残したメモがあり、調査中である。それでも大臣ははっきりと、カンパラの高等弁務官事務所 (High Commission) を通して直接に将来取引をする希望についてははっきり表明した。

Incotes- Bedford Trucks

モンドー少佐が、IncoteのHutton氏と、石油タンカー、水のタンカー、軽量重量の装甲回収車の供給について協議したことを明らかにした。

訓練について

兵器をウガンダ軍に供給するにあたっては、訓練の機器が必要であり重要である。生産者から提供される訓練に加えて、大臣は、ウガンダ人をイギリスの訓練コースにゆくゆくは派遣したいと希望している。そういった場所が提供できるならばすぐに知らせるようにとのことが確認された。

戦闘機

大臣は、ハリアーは高価すぎ最先端すぎるとして考慮から外したが、適当な戦闘機については国防省から助言が欲しいと述べた。航空機の注文に先立っては、飛行士の訓練の手配をお願いしたいとの意向である。

その他の航空機

スカイバンの説明に大臣は特に感銘を受けた¹⁰。なかでも、空飛ぶ診療所のバージョンには魅力を感じたようで、軍事目的でない導入も可能と思われるので、ほかの省庁の同僚とも協議すると述べた。

資金の問題

これらすべての要望を通じてオボス＝オフンビ氏は、1971 [sic] 年3月終わりまでにできるだけの関与をして、カンパラの高等弁務官事務所 (British High Commission) を通じてDefence

⁹ SRAAM (Short-Range Air-to-Air Missile) 短距離空対空ミサイル。

¹⁰ スカイバン (Shorts SC.7 Skyvan) は、ショート社が開発した双発ターボプロップ汎用輸送機。

Sales Organisationと取引したいという希望を表明していた。このためには、財政担当との協議を終わらせて、彼の要望をできるだけ早期に明確化させることを始めないといけない。彼は向こう2年間は国内的な経済問題があるので、英国の工場には可能な限り、財政上の配慮と支援をお願いしたいと表明した。

AUS(S)は大臣に、要望を明確に述べてくれたことに感謝した。国防省は、アミン大統領から首相に宛てた手紙には、借款の繰り延べについて申し入れがありウガンダが英国政府を頼りにしていることを認識している。大臣の軍備拡張と再装備についての要望については、あらゆる努力を惜しむものではないが、非常に厳しい財政状況については、認識されるべきであり、国防省及び関係省庁においては、注視し、熟慮することが望ましい。

結論

大臣はAUS(S)に訪問滞在中の配慮に感謝し、きわめて喜ばしく、訪問は成功裏に終わったと述べている。彼は謝意を、Lord CarringtonとMr Suffieldに伝えてほしいと述べている。AD Sales 2CのMr Seargeantが2月にアフリカを訪れ、カンパラで再会することが約束された。2月の終わりには、要望についてさらに進んだ議論ができると思われる。

(サイン)

D A I Seargent

AD Sales 2C

Rm 206 Stuart House

01-437 9288 Ext: 304

20th January 1972

次に手書きの丸数字の整理番号が打たれていない機密書類がとじられている。㊾で「別に記

載」とあるのは、この文書のことであると思われる。

(5)「銀行会議議事録」IMG_1822~1823

1月18日づけ

「AUS(S)

D Sales 2

National & Grindlays Bank Ltdとの会議

1972年1月18日、23フェンチャーチ通、23

当行は、ウガンダの政府とは長らく取引をしている。オボス=オフンビ氏の訪問をきっかけとして、現在の財政状況を議論したい。女王に対する大統領の招待を女王にお渡しするかどうかはともかく、国防大臣は、多くの兵器を購入したいと考えているようだ。この中には以下のものが含まれる。

- ・3つの空港で使用する航空管制機器。
- ・地対空、そして空対空ミサイル。
- ・SKYVAN、BULLDOG¹¹、SKYMASTER¹²を含む航空機。
- ・ヴィクトリア湖で使用する小型巡視艇。
- ・制服。
- ・軍事訓練用品と訓練施設の創設。
- ・加えてサラディン36台についても言及された。

これらは総額で、1千万から2千万ポンドの間に相当すると思われる。

私がNational & Grindlays Bankと議論したと

¹¹ スコティッシュ・アビエーション・ブルドッグ (Scottish Aviation Bulldog) は、ビーグル・エアクラフト社で「ビーグル B.125 ブルドッグ」として開発された並列複座の練習機。ビーグルは製造前に倒産した。英国空軍ではブルドッグ T 1 として1972年に130機発注。

¹² アメリカ、ダグラス社製の大型レシプロ機DC4。C-54として輸送機として活躍。1947年に生産中止となるが、修理が容易なため、その後も払い下げを繰り返し、活躍の場を変えて流通した。

ころでは、このような申し出は全く現実的ではない。アミン政権は、前政権から引き継いだ多額の契約がある。そのなかには、いくつかのホテルや建造物を含む。そうしたなかで、彼らは輸入を月500万、あるいは年6千万に制限しようとしている。主な輸出物はコーヒー、綿花、銅と限定的であり、総額でも年間6千6百万ポンドである。収支はわずかに黒字ではあるが、とうてい前政権から引き継いだ依存体質を相殺するようなものではない。

最近の英国政府からの1千ポンドの借款は、非軍事的なプロジェクトに用途が限定されている。200万ポンドのNational & Grindlays Bankからの融資は、用途は紐づけられておらず1975年までに支払えばよい。1972年1月10日に前払いされた。さらに400万ポンド支払われたが、この資金はコーヒーの収穫とその生産に密接に関係するもので、この作物関係の専門家に対する前払いになっている。

過去には、イスラエルが機器の供給に対して現金を要求したことがあり、財務大臣はもはやこれを支持せず、より長い期間やより低いレートなどを模索している。

当行の意見としては、オフンビ氏が提示する2年間という期間は、このきわめて顕著な債務を解消し抜本的な財政的回復を見込むには短すぎる。にもかかわらず、この国が財政をコントロールするよりよい能力を示せば、財政的な執行は可能になるだろうと考えている。

私たちの防衛装備の文脈で考えるとすれば、アミンが自らの財務大臣を嫌い、信用していないことに注目することは利益があると思われる。アミンは、明らかに輸入制限について気にしていない。このことは彼の個人的な財政的な利益を得たいという指標でもあるかもしれない。彼

と国防大臣は、大規模な装備の拡大の結果、その利益を確実なものにしようとしているのかもしれない。

当行の意見では、現在の申し出は全く現実性を欠いており、財政的な見通しについての明確な理解を得よう注意すべきである。また当行は、ECGD¹³の融資を撤回することを決めた。彼らはそれ以外に軍事目的に用いる資金はない。最近カンパラから戻ってきた頭取の話では、現地の状況を鑑みて現状では、全くその必要について支持できないとのことである。」

(6) 機密文書④ IMG_1824~1826 1月21日づけ

「Note for File Visit of Mr Oboth-Ofumbi」

次にとじられているのは、④の機密文書である。

「Note for File Visit of Mr Oboth-Ofumbi」の表題がある。

「MOD Sales のEIR(2)のPeters氏は、1月18日火曜日午後3時からオボス＝オフンビ氏の活動について会議を開いた。最後の出発前の打ち上げのMOD会議で彼に何というべきか考えるためのものだった。MODのDS13 Challis夫人、MOD SalesのSergeant氏それに私が出席者だった。

2 Peters氏によれば、大臣の訪問はすべてうまくいっているとのことだ。大臣は当方の配慮に感謝している。訪問の序盤は情報をもっと欲しいという希望を持っていたそうだが、工場を

¹³ the Export Credits Guarantee Department (ECGD) は、英国の財やサービスが国際競争に打ち勝ち、ひいては英国経済に利するための輸入融資の枠組みとその担当部署。多くは英国の企業が手掛ける海外の油田や天然ガスのパイプラインの建設、病院や空港、発電所のリニューアルなどにかかる経費を融資する長期間のローンなどを扱う。

実地に見学することで多くの情報を得ることができて満足しているようである。彼は技術的なことは全く分からず、それらはモンドー少佐やマルルの助言に頼りっぱなしだったという。

3 Alvisでサラディンを、Racalで個人無線と通信機器を、BACでミサイルを、そしてVospersとBrooke Marineで巡視艇を、MarconiとPlesseyでレーダーと航空監視システムを、Short Harlandsでスカイバンを見学した。

4 Peters氏によればオボス=オフンビ氏は、(明らかにハリアーのことだが)「ファイター・ボンバー」と彼が呼ぶ高価な機器を見たし、それにはウガンダ政府も関心があるとのことだが、彼らは、そういったものの調達先延ばしすることに決めたという。彼らは現在の戦力の装備の能力を改善することにした。つまり、
(a) 三つの飛行場の航空管制システムの改善。
(b) サラディンと歩兵との通信状況を改善するための無線通話システム。13万ポンド相当。
(c) ヴィクトリア湖のゲリラ活動を防止する巡視艇を用いた「アーミー・マリーン」の創設。
4隻か6隻との言及。

(d) 医療従事者や技術者(いわゆる「工兵」)を含む人員を訓練する場所を英国に、そしてSandhurst¹⁴にスタッフを、また航空関係も。

5 将来的には、航空機についても要望したいと述べていた。あるいはもっと機械的な機器についても将来的には考える。さらに、サラディン36台、空対空ミサイルや、地対空ミサイルについても。

6 大臣は、経費について、現在の会計年度末、7月には何とかしたいと述べた。現在望ましい掛け売り条件credit termsを求めており、とりわけAlvisとの間で装甲車を頭金(down

payment)なしで何とかならないかと考えている。現在提示されている頭金を借り換えできないかと述べており、ウガンダ綿花の卸売りの商品勘定を担保に充てる可能性について言及した。

7 私はウガンダの現在の財務状況について概説し、借款の繰り延べを要望する、首相に宛てた大統領の手紙の写しを配布した。会議では、ウガンダに販売する可能性はないし、現在ある5万ポンドを超える契約を担保できないということで合意した。

8 Peters氏は、英国の会社も、現在の状況をよくわかっているし、オボス=オフンビ氏は誰にも相談せずに独断で注文をしようとするだけで知られていると述べた。Peters氏によれば、いまのところどこでも契約していないのだということだ。

9 ある時点で、大臣は、3月に大統領が英国を訪問すると述べた。

(サイン)

G A Duggan

East African Department

21 January 1972

カンパラの文書館同報

」

3 オボス=オフンビ滞在中の文書

(1) 機密文書⑧ IMG_1827 1月18日づけ

ル・クエスネ氏(Mr Le Quesne)¹⁵宛て
「Visit of Ugandan Minister of Defence」

¹⁵ マーティン・ル・クエスネ(Sir Martin Le Quesne KCMG, 1917 - 2004) はイギリスの外交官。ソールズベリー高校卒、オクスフォード大学エクセター・コレッジ、陸軍の軍役を経て(1940-1950) 1949年より外務省。マリ(1961-1964)、アルジェリア(1968-1971)の大使を歴任、当時はFCOの次官補(deputy Under-Secretary, 1971-1974)を務めていた。のちナイジェリア高等弁務官 'Obituary, Sir Martin Le Quesne,' *Telegraph*, <https://www.telegraph.co.uk/news/obituaries/1458935/Sir-Martin-Le-Quesne.html> [2019年11月2日閲覧]

¹⁴ 王立陸軍士官学校、サンドハースト。

「先週末にオボス＝オフンビ氏によって渡された、1月10日付のアミン将軍の首相あての書簡¹⁶の写しを見よ。この手紙は、受け取りの草案と一緒に、どのような回答をすべきかFCOが他の部署と緊急に検討するように記したメモとともにNo.10に配信された。

2 しかし、オボス＝オフンビ氏は、英国の軍需工場を回って機器の見学をしている。工場側では彼に売ろうとして全力をあげるだろう。私たちは国防省がウガンダに何の担保もしないということを改めて確認しているが、国防省側が工場に警告を発したりすることができるか、あるいはそうしようとするかどうかは疑わしい。明日国防省で、私たちやECGDの代表も出席する会議が開かれるので、そこで成り行きが議論できるだろう。

3 お帰りになったら、FCOの方針について早速に話し合いたい。私たちはアミン将軍とアミン政権とに対する省としての態度を考えなければいけない。この問題についてガイダンスいただけると幸甚です。

S Y Dawnbarn
East African Department

17 January 1972

Copy to:

Mr Fingland」

(2) 部外秘文書⑦ IMG_1828 本文に日付記

載なし。FCOの受領記録は1月18日づけ

「部外秘

優先順位

CYPHER/CAT A

¹⁶ この書簡のコピーを指して⑧と手書きで書かれているが、ファイルには⑨とはじられていない。開示期限がこのファイルと異なるか、あるいは紛失の可能性もある。

PRIORITY 131556Z JAN

FM MODUK

INFO FCO

PRIORITY 121330Z

FM BRITDEFAD KAMPALA

TO MODPE UK

INFO FCO

BT

部外秘

DIG WWW/OYL

SAVING TO SERGEANT PD TUFFILL

SALES. YOUR WWW/ OYL 101425X

1 Sergeantは、国防大臣と、モンドー少佐、マルル少佐に今週ロンドンで会ったと思います。彼らは、備品などを着服する人たちです。

2 軍や、警察の状況は、あなたが1971年の8月に訪問した時とほとんど変わりません（中略）。

3 私たちは本質的に防衛費ではないような出費を控えるように持っていくつもりだし、本国（HMG）が、防衛に関する買い物をさせようとしている印象をウガンダ人に与えないように希望する。

FILES

DEFENCE DEPT

E.A.D.

RESTRICTED」

(3) 機密文書⑧ IMG_1829～1830 1月12日づけ

「ロシアン卿の事務所での1972年1月11日火曜日3:20からの会議議事録

出席者:

ロシアン卿

Mr S Y Dawbarn

Mr A M Goodenough

ウガンダ防衛相 オボス=オフンビ閣下

ウガンダ高等弁務官 (High Commissioner)

er ルカカムウア中佐

E モンドー少佐

ウガンダ国防大臣は、1月11日、国会議員次官を表敬訪問した。

2 大統領アミンから女王と首相に宛てた書簡を携えているとのことだったが、ホテルに忘れたとのこと。彼は明朝ロンドンを出発するので、ロシアン卿が東アフリカ部を代表してこれらを受け取ると述べた。

3 大臣は、政府が軍事訓練校を開設することの重要性を特によく認識しているという。このことはEAC諸国が分割された際にウガンダにはこの施設がなかったことによる。費用についてどれだけかかるか大臣は承知していないが、友好国の援助によって、機材や施設、費用の分担、わりあてがなされることを希望している。

4 機材としては、ウガンダはとりわけ、サラディンと、サラセンをもっと注文したいと大臣は述べた。現在40台のサラセンが稼働中だが少なくともその倍は必要だという。

5 ロシアン卿は、何のためにウガンダはそれほど兵力増強を図るのか、国境の防衛のためですか、と聞いた。大臣はその通りだと答えた。ウガンダはその国に将来何が起こるのかが予測しがたいザイルとの間に非常に長い国境を接している。スーダンとの国境は国際関係もよく現在沈静化しているが、過去には、スーダンの国軍や反政府軍との国境をめぐる戦闘があった。問題はスーダン国軍の補給状態が適切ではなかったことによっている。ケニアとの間には、トゥルカナとカリモジョンの民族間小競り合い

以外の問題はない。タンザニアとの国境は現在は沈静化しているが、国と国との関係はあまりよくないので、次に何が起ころうとおかしくない状態である。大臣によれば、タンザニアの国軍は、中国の指導によって訓練を受けているとのことである。

6 ロシアン卿は、HMGは、軍装備についてのウガンダの要望について考慮するだろう、と述べた。できるだけの援助はするが、ウガンダの過度な出費は望まない。大臣も、財政状況が先の政権の放漫財政によって危機的状況にあることを認めたものの、例えば繰り延べの期間延長などの友好国の協力によってこの問題を切り抜きたいとのことである。とくに英国はEECに加入したら、輸出を促進することによる協力が必要であると述べた。

7 大臣は、ウガンダが代表を置いていない国に対する関係を改善するための助力を英国に依頼した。この問題については、とくにウガンダの物資の輸出振興を念頭に置いているとのことだった。ロシアン卿は、東アフリカ諸国との共同の商業代表を海外に置くことを考えてはどうかと提案した。大臣は、現在はEEC本部にEACの代表があるだけなのでそれは名案だと述べた。

1972年1月12日

東アフリカ部

Copies to:	UK Reps. At:
Mr Le Quesne	Kampala
Mr Fingland	Kinshasa
R Anderson-MOD	Khartoum
D A Nicholls-MOD	Dar Es Salaam
R K Paskins-DTI	Nairobi
NAD	

WAD

Defence Dept.」

(4) 機密文書② IMG_1831 1月13日づけ

「Foreign and Commonwealth Office

London S. W. 1

JEU 22/2

1972年 1月13日

A H Brind Esq

KAMPALA

国防大臣の訪問

大臣は現在ここに滞在中で滞在プログラムについて満足しているようであり、すべて順調であり、良い印象をもったまま帰国すると思われる。

2 ロシアン卿に大臣が示した要望についての記録を別に送った。大臣がホテルに女王と首相宛ての書簡を忘れたことに気づいたのは、ロシアン卿の部屋でのことであった。

3 すでに書いたように、我々はまだメッセージを受け取っていない。ヒース氏（首相）への書簡は、債務繰り延べの件だと想像するが、外れているかもしれない。大臣は直接書簡を渡すことを希望しているが、彼の予定は詰まっており、すこし難しいと思う。書簡は明日受け取ることができるだろう。

4 大臣はもともとは土曜日に帰国の予定だったが、訪問したい工場、見たい装備の数が増えたため、来週まで滞在は延期された。

5 彼のこの行動は、私たちにも多少の関係が出てくる。彼がどんな装備を見たいと言っても我々はそれを妨げる立場にないが、彼が見たい

という要望のリストは3通あるが、そこには、最新の機材が含まれており、ウガンダ軍の大規模な充実と装備改善を考えていることがうかがわれる。

6 あなたはウガンダの現在の状況をよくご存じだが、現在何もない状態だ。大臣には注意するように印象付けるけれども、我が国の工場のほうは受注契約について考えは始めているにちがいない。あなたも国防省のアドバイザーも、ウガンダの現在の財政状況が抱える問題について、あらゆる機会をとらえて大臣たちに忠告をしていたことは間違いない。

7 しかし、あなた（あるいはあなたが帰った後の高等弁務官（High Commission））が、大統領に直接忠告する機会を得たら、大臣が現在考えている機材に出費することは、ウガンダの財政にとって過大な負担になるものだと、再度忠告しておいてもらいたい。

S Y Dawbarn

East African Department」

(5) 文書④ IMG_1832～1833 1月13日づけ
「JEU22/2

Mr Logan

オボス＝オフンビ氏

ウガンダ国防大臣オボス＝オフンビ氏が国内にいる。1972年10月に行われる、ウガンダ独立10周年を祝う式典に女王を招待したいという大統領アミンのメッセージを携えてのことである。首相宛ての書簡も所持しているとのことだが、その内容については承知していない。

2 この二通の書簡を手渡すために1月11日にロシアン卿を訪問したが、彼は書簡を持ってくるのを忘れた。彼自身で書簡を手渡したいとの

希望が強かったので、1月14日金曜日にロイル氏を訪問するよう手配した。

3 訪問は、形式的なもので、短いものになるはずである。ロイル氏も手紙を受け取り、それを女王と首相に渡すと請け負う以外のコメントはしないことになっている。

4 ロシアン卿訪問の際の準備の書類と訪問の際の記録を添付する。

(サイン)

S Y Dawbarn

East African Department

1972年1月13日」

(6) 機密文書② IMG_1834 1月13日づけ

「Foreign and Commonwealth Office

London S. W. 1

JEU22/2

1972年1月13日

R アンダーソン Esq

AUS (Sales)

国防相

ホワイトホール

ロンドン S W 1

JEU6/548/3へも写し(手書きメモ)

ご存じの通り、現在ウガンダ国防大臣オボス=オフンビ氏が現在本邦を訪問中である。彼の要望により、広範囲にわたり軍事設備を見学するよう手配していることと思う。彼の意図は、ウガンダ国軍の装備の大規模な刷新にあると思われる。

2 ウガンダの財政状況が厳しいことをあなたも承知していることは私も認識している。我々の調べではアミン大統領は大がかりな債務の繰

り延べを我々に要望することを考えているようである。さらに、ウガンダの与信を疑った ECGDは、ウガンダへの資金についてたびたび厳しい管理をするようになってきている。

3 われわれは正当である限り、ウガンダ政府について援助をしていきたいと考えている。しかし彼らがどうにもならないような契約をして、財政問題を悪化させる状況を作ってしまうことは得策ではない。このことによって、ウガンダの主な債権者の一員としての私たちは失うものしかないだろう。

4 私たちは大臣の装備を見たいという要望には応えるべきであると認識している。しかし、英国の工場がウガンダの財政状況を見て、疑いなくそれを放置すること、そして大臣が、現在のウガンダの財政状況では、ビジネスに用いることのできる与信の限界を明確に認識する機会になることを望みます。

5 この文書の写しは、リー (Lee) (Treasury)、パスキンス (Paskins) (DTI)、ヒュー (Huges) (ODA)、ペリン (Perrin) (Bank of England)、ニコルス (Nicholls) (DS6 MOD)、そして国防部のプーリー (Pooley) に送ります。

S Y Dawbarn

East African Department

機密」

(7) 文書② IMG_1835 1月10日づけ

「2 Carton Gardens

London S W 1

01-839 6272

GHF A 1724

1972年1月10日

P H Grattan Esq
Foreign and Commonwealth Office
Downing Street
London SW1

(Dear Grattan)

ウガンダ国防大臣オボス＝オフンビ氏を
HMGの正式なゲストとして1月10日から13日
までお招きするというお申し出の書簡を12月31
日にいただきました。

我々の大臣はその件について、この訪問の費
用は、それに伴う公的な催事についても、政府
の招待接待費（GHF）によって賄うことに
ついて同意しています。

(Yours sincerely

Willie Paterson)

W J W Paterson]

(8) 文書② IMG_1836~1839 1月11日づけ

「JEU22/2

Received 11 Jan 1971[sic]

グッドイナフ氏

オボス＝オフンビ氏

国防大臣のロシア人卿訪問の際の文書の第4
及び第5パラグラフに見る通り、ウガンダの国
防費が過剰であることへの言及がなされた。

2 カンパラから装備のリストをすべて受け
取ったが、大臣がこちらで見学したいと言っ
ている中には、最新鋭の機器も含まれている（テ
レグラムを参照のこと）。残念なことにこのこ
とは、現在のウガンダに典型的な無駄である。
ウガンダの現在の財政的な困難はこのように

まったく望ましくない、持っていても全く意味
がないような機材を購入することによっている。

4 ウガンダの資金の投下は、すでにECGDに
よって厳しく管理制限されている。英国の工場
がこのような機材の注文を受けたとしても、ホ
ワイトホールがそれを負担するような支持の見
込みは全くないと考えてよい。

5 私たちは大臣が望むならば、これらの工場
を見学することを阻むことはできない。MOD
Salesは、申し出からの準備期間が短い中で、
できるだけの手配をしている。しかし、こうし
た申し出のなかでも、重要なのは、我々の側で
は、ウガンダの防衛費のことについて、大臣に
明確にしていく必要があるということである。

1972年1月11日

S Y Dawbarn

East African Department]

4 オボス＝オフンビ出発前の文書

(1) 文書② IMG_1840 受領記録は1月11日

「至急（IMMEDIATE）

CYPHER CAT/A

FM KAMPALA 101430Z

CONFIDENTIAL

TO IMMEDIATE MODUK INFO

IMMEDIATE FCO

FOR MOD UK FROM BRITDEFAD

KAMPALA

CONFIDENTIAL 101345Z

国防大臣の訪問

1 AlvisとRacal（FCO担当電35）MODSalesと
話して大臣は以下の工場を訪問したいと話した。

A 対空防衛レーダー（3基の導入が必要）

ウガンダ元大統領代行、故オボス=オフンビの遺品(II)

B 巡視船と訓練機材（契約あるイギリス海軍）

C 空対空ミサイルおよび地対空ミサイル。

2 1Aに関連して、S600携行タイプがウガンダには最も適当だろうと私は思う。

3 1A、B、Cの観点から大臣は、2、3の工場を回り製品を見て、その性能、価格、支給状況などを比較したいという希望である。

4 これらの追加の要望は、今日の午後大統領と大臣が会談した結果出てきたものである。

FCO PASS IMMEDIATE MODUK
BRIND
[SEND TO DCC]
DEPARTMENTAL DISTRIBUTION
E AFR D
DEFENCE D
P & C D
NEWS D

機密」

(2) 機密文書⑩ IMG_1841 1月10日づけ、
受領記録は1月11日

「CYPHER/CAT A
FM KAMPALA 100810Z
CONFIDENTIAL
TO IMMEDIATE FCO TELNO 35 OF 10
JANUARY INFO MODUK (IMMEDIATE)
AND ROUTINE TO NAIROBI AND DAR ES
SALLAM

MY TELNO 31: 国防大臣の訪問

1 私は今朝大臣（彼は私たちが先に会った後に大統領と会談している）とさらに協議をし、

以下の要点を得た。

(A)大臣はウガンダ軍の将校からえらんでボディガードを連れていくこと。

(B)土曜までロンドンに滞在の予定だが、日程すべてについて予定を作る必要はない。思うに、ずっと公賓として扱われるのもストレスだろう。

(C)Alvis工場（将来的には、軍用車を注文する可能性がある）とRacalの工場を見学する希望がある。Racalを先に訪問したいとの希望である。

(D)公には彼は訪問を最小限にとどめたい意向である。

(E)大臣の妻はロンドンに向けて水曜日の夕方に出発する予定である。彼女は消化性潰瘍の疑いがあり、専門家に診察してもらえよう予約を取ってもらえる可能性があるだろうか？彼女の診察については、大臣は、自身で支払うと明言している。

FCO PLEASE PASS ALL
BRIND
REPEATED AS REQUESTED
DEPARTMENTAL DISTRIBUTION COPIES
TO
E AFR D CAPT BRIGGS, RM 8334, MOD
DEF D COL. COWLEY, MDS 3, MOD
PROT & CONF D
NEWS D
MOD INT
CONFIDENTIAL」

(3) 機密文書⑩ IMG_1842~1843 1月10
日づけ、受領記録は1月11日

「CONFIDENTIAL
IMMEDIATE

CYPHER/ CAT A
FROM KAMPALA 080855Z
CONFIDENTIAL
TO IMMEDIATE FCO TELNO 35 OF 10
JANUARY INFO MODUK (IMMEDIATE)
AND ROUTINE TO NAIROBI AND DAR ES
SALLAM

RESIDENT CLARK TO PASS TO E A D
SATURDAY A.M.

YOUR TEL NO 14: 国防大臣の訪問

1 昨夜大臣は遅く帰ってきて、今朝大臣に私が会ったのは今朝だった。大統領との会話で、1月16日を想定していた（私のTEL NO 1449には「その月の中旬」とある）。

（一JEU10/3-(71)-247）

2 オボス＝オフンビも同意したが、来週の初めにロンドンに行くことには個人的な問題があるし、延期は難しいと私も説明し、彼も延期については考えないと述べた。1月11日6時25分にロンドンに着くEC714便で渡航することとした。

3 私は、TELNO9 (⑥) のとおりの計画を提案し、了承を得た。とくに付け加える考えはないとのことだったので、火曜日の夕方は自由時間のままとしたいとのことで合意した。

4 大臣によれば、携行するはずの首相宛ての大統領書簡は、まだ準備できていないだろうとのことだった。そのことを理由に渡航を伸ばさないようにと申し上げた。

FCO PASS ALL
BRIND

[SENT TO D.C.C.]
[REPEATED AS REQUESTED]
DEPARTMENTAL DISTRIBUTION COPIES
TO:
E. A. D. CAPT BRIGGS, RM 8334, M.O.D.
DEF DEPT COL. COWLE MDS 3 M.O.D.
PROT & CONF DEPT
NEWS DEPT
MOD INTERNAL
CONFIDENTIAL]

(4) 機密文書⑦ IMG_1844 1月7日づけ、
受領記録は1月11日

「IMMEDIATE
CONFIDENTIAL
CYPHER/CAT A
FM KAMPALA 071432Z
CONFIDENTIAL
TO IMMEDIATE F C O TELNO 29 OF 7
JANUARY.
M I P T (⑩) : 国防大臣訪問

1 MONROVIA TELNO 1 (⑬) を拝見。イギリスの大臣たちにとっては、訪問は1月16日からが望ましい。

BRIND
DEPARTMENTAL DISTRIBUTION COPIES
TO:
EAD CAPT BRIGGS, RM 8334, MOD.
PROT & CONF D COL. COWLE MDS 3,
MOD.
MOD INT]

(5) 機密文書⑩ IMG_1845 1月7日づけ、
受領記録は1月11日

「IMMEDIATE
CONFIDENTIAL
CYPHER/CAT A
FM KAMPALA 071405Z
CONFIDENTIAL
TO IMMEDIATE F C O TELNO 28 OF 7
JANUARY INFO MODUK.

TELNO 9(⑥)：国防大臣の訪問

1 TELNO 19(⑦)で私が説明したように、大臣には直接接触していないし、日曜日まで接触することはできないだろうと思う。あなたが、提案したプログラムは最大限満足すべきものだと思う。大臣も同意しない理由はないと思う。オボス=オフンビは、提案されたプログラムが充実したものになるように努力するだろう。火曜日の朝までに彼が到着しなかった場合、夜の接待は一回遠慮したいと考えているかもしれないが。

FCO PASS MODUK

BRIND
[SENT TO DCC]
DEPARTMENTAL DISTRIBUTION COPIES
TO:
EAD CAPT BRIGGS, RM 8334, MOD
PROT & CONF D COL. COWLE MDS 3 MOD
DEF D
MOD INT
CONFIDENTIAL」

(6) 機密文書⑮ IMG_1846 受領は1月11日
「IMMEDIATE

CONFIDENTIAL
CYPHER/CAT A
FM KAMPALA 070620Z
CONFIDENTIAL
TO IMMEDIATE F C O TELNO 21 OF 7
JANUARY.

MY TELNO 19(⑦)：国防相の訪問

1 バイオグラフィ的情報は以下の通り。

EMILIO MONDO少佐

軍(歩兵)

年齢34歳

現職 ウガンダ国軍、本部のAAおよびOMG。

学歴 歩兵学校、WARMINISTER、1969、カナダ・スタッフ・カレッジ1969-1970。

部族 メトゥ民族(Metu)、マディ県出身。

(これまで高い階級の官職になかったが)、現在は軍のなかでも最も重要な位置を占める有能な専門職官僚である。

(英語は上手、洗練されて、社会性がある)

BYETURAKI MARURU少佐

空軍(パイロット)

年齢29歳

現職 第一級作戦及び訓練教官、ウガンダ国軍。

RAFスタッフカレッジ 1970-1971。

個人的には我々は知らないが、スタッフカレッジの報告によれば、見栄えの良い知的な官僚で、礼儀正しく、心地よい態度で、生き生きとしたユーモアのセンスをもっているようだ。

BRIND

DEPARTMENTAL DISTRIBUTION COPIES
TO:

E AFR DP & C D
DEFENCE DMOD INT]

(7) 機密文書⑭ IMG_1847~1848 1月7
日づけ受領は1月11日
「IMMEDIATE CONFIDENTIAL
CYPHER CAT 'A'
FMFCO 071815Z (JE)
CONFIDENTIAL
TO IMMEDIATE KAMPALA TELNO 14 OF
7 JANUARY UBFO MONROVIA.
MONROVIA TELNO 1 TO YOU (⑬)
国防大臣訪問

1月16日という日にちは私たちにとって全く
新しい日程である。あなたのTELNO1449
(JEU10/3 (71)-247) 1パラグラフにあるよ
うに大統領の意向にあったものとして日程は提
案されたはずである。それによれば、中旬だが
早い方が望ましいことになっている。

2 これまでも、短い準備期間での大臣訪問の
計画を立てることには我々は大変な困難を感じ
ている。例えばバルニール卿の昼食会の招待は
すでに書類が出回っており、手配の延期は困難
である。さらにロシアン卿は1月12日から外遊
に出かける予定である。

3 したがって、当初提案された通りの日程で
いらっしゃるよう、大臣にはお伝え願いたい。
大統領とお話しいただいても構わない。

4 訪問が決定し次第、到着の詳細情報を至急
お知らせいただく必要がある。

DOUGLAS-HOME¹⁷
DEPARTMENTAL DISTRIBUTION COPIES
TO

EAD CAPT BRIGGS ROOM 8334 MOD
P & C D
CONFIDENTIAL]

(8) 機密文書⑬ IMG_1849 1月7日づけ1月
11日受領
「CONFIDENTIAL
IMMEDIATE
EN CLAIR
FM MONROVIA 070800Z
UNCLASSIFIED
TO IMMEDIATE KAMPALA TELNO001 OF
7 JANUARY INFO IMMEDIATE TO F C O.

YOUR TELNO 1(④)/ウガンダ国防大臣のロ
ンドン訪問

1 1月6日の1900Zのメッセージによると彼
はカンパラに1月8日に帰ってくるとのこと。

2 彼は、1月16日に到着する日程が希望であ
ると付け加え、そのように理解している。1月
13日に妻とともに学校に行く子供を見送るこ
とを希望しているからである。

FCO PASS IMMEDIATE
MOYNIHAN

DEPARTMENTAL DISTRIBUTION
EAD
PCD
DEF D
OADS
MOD INTERNAL

¹⁷ ムヘイゼルのヒューム男爵アレクサンダー・フレデ
リック・ダグラス＝ヒューム (Alexander Frederick
Douglas-Home, Baron Home of the Hirsel, KT, PC 1903
- 1995) は、英国の貴族で元首相。当時はヒース政権下
で外務英連邦大臣 (1970-1974)。

CONFIDENTIAL

FFFFF」

(9) 機密文書⑫ IMG_1850 1月7日づけ受領印なし

(表紙)

「外交団副長官様恵存

外務省 (Foreign and Commonwealth Office)

S.W.1.

(本紙) IMG_1851

SANDRINGHAM NORFOLK

7th January 1972

(手書き) My Dear Lees

あなたが1月5日にマイケルに宛てた書簡の私の回答は以下です。

(a) 1972年10月に女王がウガンダを訪問することは現実問題として無理です。

(b) ウガンダからの招待状は、外務省関係大臣にお渡しするべきで、女王に直接お渡しするべきではない。

もし、女王がオボス=オフンビ氏を直接お迎えすることができたとしても、状の招待についての法的に適切な窓口は常に外務省事務方を通してのものであるべきであり、直接ではありえません。

(手書き) Yours ever

Martin

Spoke Mr Duggan

E African Dpt

Copy to Mr Duggan

All

MOD a.a.]

(10) 文書⑬ IMG_1852 1月10日づけ受領印なし

「広報官へ向けた注意書き

オボス=オフンビ氏訪問について

1 本日午後のプレスリリースを参照。

2 この訪問はアミン大統領の希望によるもので、ロンドンとの近い関係を維持したいという意図を強く表したものである。ロシアン卿は10月にはウガンダにいた。プレスリリースに示されているように、オボス=オフンビ氏の関心のほとんどは、MOD関連である。木曜日と金曜日の手配についてはプライベートなものである。オボス=オフンビ氏の到着は水曜日の夕方である。

DW

10.1.72」

(11) プレスリリース IMG_1853 1月10日づけ

「PRESS RELEASE

FOREIGN&COMMONWEALTH OFFICE

No 7 10 January 1972

4.15pm

ウガンダ国防大臣、A C K オボス=オフンビ氏は、明日1月11日に短期間の訪問予定でロンドンに到着する予定である。滞在中彼は、英国政府の訪問客として取り扱われる。外務省でロシアン卿を訪問するほか、国防関連調達大臣のギルモア氏と国防省で定例会議をもつ。バルニール卿が水曜日の昼食におもてなしする予定である。オボス=オフンビ氏は、土曜日にはウガンダに向けて帰国の予定。

News Department

Foreign & Commonwealth Office, Whitehall,
London S. W. 1」

(12)機密文書⑨ IMG_1854~1859 1月

10日づけ受領印なし

1枚目 IMG_1854

「JEU 22/2

グッドイナフ氏

オボス＝オフンビ氏

ウガンダ国防大臣オボス＝オフンビ氏は、1月11日3.00p.m.にロシアン卿を訪問する予定。添付はロシアン卿への文書である。

2 滞在中のプログラムと、個人情報も添付する。

3 滞在中は、ボディガードと、モンドー少佐、マル少佐（簡単なメモを添付）が随行する。ウガンダ高等弁務官（High Commissioner）のルカカムウァ少佐も訪問には随行する模様である。

（手書きサイン）

S Y Dawbarn

East African Department

10 January 1972

Copy to:

Mr Le Quesne

Mr Fingland

Mr Mayall

Defence Dept」

2枚目 IMG_1855

「ウガンダ国防大臣オボス＝オフンビ氏訪問にかかる書類

この度の英国訪問は、アミン大統領の意向によるものである。彼はトルバート大統領の就任式で先週はリベリアにいた。英国には11日の早朝到着し、バルニール卿主催の昼食会にアドミ

ラルティ・ハウスで出席したのちにFCOに訪問することになっている。」

「女王の招待」

「2 大臣の訪問のもともとの目的は、1972年10月のウガンダ独立10周年の招待を女王に伝えることだった。女王陛下は現在ロンドンにおらず、ロシアン卿が代理で書面を受け取ることになっている。出席はかなわないだろうが、女王の判断は改めて大統領に伝えられるのがよいだろう。したがって、ロシアン卿は、大臣には大統領のメッセージのお礼を言い、陛下にそれを伝えるだけでよい。

3 ウガンダからの債務繰り延べの援助要請の申し入れがあることは、数か月前から予想していたことである。アミン大統領は、高等弁務官（High Commission）のコミッショナー代行に、首相宛ての書簡の中身について口頭で述べている。1月5日にBrind氏にオボス＝オフンビ氏が首相宛ての書簡を携行すると述べていたが、最新の情報によれば、それはなくなったようだ。内容は、財政的な援助を求めるものかもしれないし、首相もウガンダに招待したいというものかもしれない。（首相はすでに1月25日のアミンのクーデター1周年記念には残念ながら出席できない旨を申し伝えてある。）ロシアン卿はこうしたメッセージを受け取り、伝達することになるだろう。もしそれが財政援助であれば、最大限の注意が必要である。」

3枚目 IMG_1856

「ウガンダの財政状況」

「4 ロシアン卿は大臣訪問というこの機会をとらえて、私たちがウガンダの財政状況について重大な関心を持っていることを伝えることが

ウガンダ元大統領代行、故オボス=オフンビの遺品(II)

できるであろう。アミン大統領は確かに（前政権からの）負債を引き継いだのだが、彼の特に軍事費にかんする放漫財政は、これをさらに悪化させ、ウガンダの与信を大きく損なう結果になっている。国防大臣として、オボス=オフンビ氏にも過大な軍事費についての責任があるはずである。

5 ロシアン卿は、ウガンダの要望について承知しているし、できる援助はしていくつもりだと述べるのがよいだろう。現在一つのODAが1千万ポンド相当の開発援助を要望するウガンダ政府のプロジェクトを検討している。しかし、ウガンダ政府が支出について厳しく管理することができなければ、こうした援助も難しくなる。とくにウガンダの軍事費については、かなり突っ込んだ介入が必要である。

6 秋にウガンダ=タンザニア国境で沸き上がった紛争が収束し、現在は国境が開かれていることを喜ばしく思うと述べてよい。スーダンとウガンダの国境についても開通の見込みを聞いてもよいかもしれない。

「国防」

7 大臣は国防省では国防について協議するだろうし、ウガンダに東アフリカ発のサラディン装甲車を多数供給する契約を有しているAlvisと、軍用車に適した無線についてはRacalを視察するだろう。

East African Department

10 January 1972

機密」

4枚目 IMG_1857

「機密

プログラム

1月11日(火) EC714便で6.25到着。M N Romer氏と会い、サボイ・ホテル滞在。

12.45 MOD到着、Guard of Honourを受け、バルニール卿に面会。バルニール卿訪問。

昼食はバルニール卿と、アドミラルティ・ハウスで。

15.30 ロシアン卿訪問。

夕方 自由（大臣の希望による）

1月12日(水)

10-10.20 国防調達担当大臣のギルモア氏と面会。

10.20-12.00 AUS (Sales) とさらに協議。Crown Agentsが同席。

午後 Alvisと協議

夕方 ウガンダ高等弁務官 (High Commissioner) 招待による夕食。

1月13(木)/14日(金)

Alvis工場（コンヴェントリー）とRacal工場（レディング）に私的な訪問を予定。

1月15日(土) 出発。

機密」

5枚目 IMG_1858

「機密

オボス=オフンビ、アルファクサド、チャールズ K

国防大臣

民族はイテソ [sic]。1932年、ブケディ県生まれ。キングズ・コレッジ、ブド、協同組合補助官コース（エンテベ）、行政官コース（1960）などで教育を受ける。協同組合アシスタント（1954-1957）、のちアチョリ、およびランゴで県の官職（1960-1962）につく1960年までブケディ県弁務官事務所で働く。アチョリ県弁務官（1963）。首相官邸上級秘書官（1963-1964）。

地域行政府、地域査察官(1964)。内閣書記官(1964)、内閣官房次官(1966)、1968年11月、国防省次官に任命。1971年1月25日のクーデター後、アミンに国防担当大臣に任命され、のちに国防大臣となった。1969年9月から10月にかけて、インド、ソ連、チェコスロバキアをアミンとともに訪問した。1971年7月の初め、(アミン訪問の少し前)兵器購入のため、イギリスやほかの西ヨーロッパ諸国を訪問した。

オボスは、もっとも腐敗した大臣として認識されている。ブケディには、種類の豊富な作物や牛を育てる、よく管理された農場を持っている。大臣のなかでもアミンにもっとも近いと考えられ、彼の地元にも大統領はよく足を運ぶようである。彼はアミンの軍隊の経費を下げようなどとは全く考えていないようであり、内政にも全く関心がない。彼に対処するのは何かと面倒なことがあります、納得すれば物事を進めることができる。近づかなければ、気持ちがいい静かな人であり、愛想がいい人である。英語をしゃべらないダル(dull)な妻と結婚している。」

6枚目 IMG_1859

機密文書⑮のモンドー、マルルのバイオグラフィ部分の写しそのままであるため、省略。

(13)機密文書FM FCO 061308Z 1月6日
づけ受領印なし IMG_1860 (図6)

「IMMEDIATE

CYPHER/ CAT A CONFIDENTIAL

FM FCO 061308Z (EAD)

CONFIDENTIAL

TO IMMEDIATE KAMPALA TEL NO 9 OF
6 JANUARY INFO NAIROBI, DAR ES

SALAAM.

YOUR TELEGRAM NO 16.

VISIT BY MINISTER OF DEFENCE.

難しいお仕事をさせていただいて感謝している。しかし、時間は限られているので、週末までに手配を済ませたい。

2 したがって、大臣が帰ってきたら以下のプログラムについてできるだけ早く検討してもらいたい。

1月10日(月)到着。

1月11日(火)

12.45: MOD到着、Guard of Honourを受け、バルニール卿に面会。バルニール卿訪問。

昼食はバルニール卿と、アドミラルティ・ハウスで。

15.30 ロシアン卿訪問。

1月12日(水)

10-10.15 国防調達担当大臣のギルモア氏と面会。

10.15- AUS (Sales) とさらに協議。Crown Agentsが同席。

午後 Alvisと協議

3 ご希望なら、火曜日の夕方に観劇などを手配します。」

※この文書には、1日遅れの予定を書き込んで修正したほか、12日の高等弁務官晩餐会以降の予定が手書きで草案されていることが注目される。筆者の知りうる限り、オボス=オフンビの筆跡ではない。

2枚目 IMG_1861

「4 明らかに月曜日の到着が望ましい。可能であることを希望している。火曜日までに到着しない場合、このプログラムのままでいくおつもりなのか。到着後の午前にくらかお休みいた

だく時間はとっている。直前の再設定は困難であることはご承知であろうと思う。

5 週末になる前にお返事いただけると幸甚です。

ダグラス=ヒューム

DOUGLAS-HOME

DEPARTMENTAL DISTRIBUTION COPIES
TO

EAD CAPT BRIGGS ROOM 8334 MOD
P & C D COL COWLEY MDS 3 MOD
DEFENCE D

PS TO LORD LOTHIAN

MOD(INTERNAL)

CONFIDENTIAL」

(14)IMG_1862

(12) 5枚目、IMG_1858の写し。オボス=オフンビのバイオグラフィ。

(15)IMG_1863

「INNEDIATE

CYPHER/CAT A

FM KAMAPALA 070620Z

CONFIDENTIAL

TO IMMEDIATE F C O TEL NO 21 OF 7
JANUARY.

MY TELNO 19: 国防相訪問。

1 バイオグラフィ情報は以下のとおりである。」

以下、機密文書⑮ IMG_1846に記載のモンドーとマルルのバイオグラフィが記載。⑮には⑦との記載があるので、この文書自体には⑦の文字はないが、この書類が⑦であり、この書類を指していると思われる。

(16)IMG_1864 1月10日

「JEU 22/2

秘密

Mr Le Quesne

ウガンダ国防相の訪問

1月11日早朝、オボス=オフンビ氏が到着します。あなたは、バルニール卿がアドミラルティ・ハウスで主催する昼食に招待されています。別に、今回のロシア卿の訪問とプログラム、そして個人情報を送ります。昼食の招待客のリストも送ります。

2 1971年7月初めにオボス=オフンビが直近訪問したときお会いしているので、近しいし、気も合うでしょう。

3 昼食の際に機会があったら、ウガンダにおけるイスラエルのことについて何か引き出せないか試してみる価値はあると思います。1月3日づけのBrind氏の手紙の写しをつけておきますが、最近の情報では、イスラエルはお気に入りの位置から失墜しているようです。情報によれば、もう何の注文も契約もしないということです。クーデターの時からアミンの側近で、彼らの「軍事アドバイザー」だったBar Lev少佐のことを思い起こせばわかるでしょう¹⁸。

4 これは微妙な問題ではありますが、イスラエルの訓練と建設作業が規模縮小しているという情報について、あなたから聞くのはおかしくないでしょう。

(自筆サイン)

S Y Dawbarn

East African Department

¹⁸ Haim Bar-Lev (ヘブライ語表記は חַיִּים בָּר־לֵוִי、1924-1994) は、イスラエルの軍人。のち大臣となる。オボス=オフンビ自宅のアルバムにあるイスラエル訪問時の写真に写っており、このアルバムも電子化されているので(梅屋 2016a: 121-123)、別稿で公開したい。

1972年 1月10日

cc Mr Fingland
KNC」

(17)機密文書IMG_1865 1月6日 1月7日
受領

「CONFIDENTIAL

IMMEDIATE

CYPHER /CAT A

FM KAMPALA 061415Z

CONFIDENTIAL

TO IMMEDIATE F C O TEL NO 19 OF 6
JANUARY INFO IMMEDIATE MODUK
AND ROUTINE TO NAIROBI AND DAR ES
SALAAM.

MY TEL NO 16(⑤)：国防相訪問。

1 本日昼食の際に大統領とさらに協議した。
その際に、オボス=オフンビが正確にはいつカンパラに戻るのか誰もわからないし、彼自身が翌週にはイギリスに派遣される予定だと知っているかどうかともわからないとのことだった。そこで私はモンロヴィアの大使を通じてオボス=オフンビと連絡を取ることを提案し、認められたので、モンロヴィアに打電し、併せてあなたにもお送りする。

2 大統領は、土曜までにオボス=オフンビがカンパラに帰ってくれば、ロンドンに火曜日の朝には着くのが望ましいと考えているといった。随行にはモンドー少佐とマルル少佐をつける予定だと述べた。マルル少佐はRAFのスタッフカレッジから帰国したばかりである。バイオグラフィ情報は以下の通り。

FCO PASS ALL

BRIND

[REPEATEDASREQUIRED]

[SENT TO DCC]

DEPARTMENTAL DISTRIBUTION

E. AFR DEPT

FCD

DEF DEPT

OTHER AFRICAN DEPTS

MOD(INTERNAL)

CONFIDENTIAL」

(18)機密文書⑥ IMG_1866~IMG_1867

1月6日づけ 受領は1月7日

「IMMEDIATE

CONFIDENTIAL

CYPHER /CAT A

FM FCO 061308Z (EAD)

CONFIDENTIAL

TO IMMEDIATE KAMPALA TEL NO9 OF 6
JANUARY INFO NAIROBI, DAR ES
SALAAM.

YOUR TELEGRAM NO 16 (手書きで⑤)」

※この文書は機密文書FM FCO 061308Z

IMG_1860 (図6)の手書きの書き込みがない版である。

(19)機密文書⑥ IMG_1868 1月6日づけ

受領は1月7日

「IMMEDIATE CONFIDENTIAL

CYPHER/CAT A

FM KAMPALA 060630Z

CONFIDENTIAL

TO IMMEDIATE FCO TEL NO16 OF 6
JANUARY INFO TO MODUK, NAIROBI
AND DAR ES SALAAM.

YOUR TEL NO 1274: 国防相訪問

(JEU22/2(71)-㊸と手書きメモ)

1 国防大臣はあなたのテレグラムを私が受けとる前にモンロヴィアに向けて出発した。今夕まで帰らない。しかし、大統領およびキベディと話すことができ、大統領はロンドンにはオボス=オフンビを派遣するといった。

2 彼が不在なので、旅程を立てることと、誰が随行すべきかを決めることは難しい。大臣が1月11日の朝までに到着できない可能性もある。モンドー少佐(AA/QMG)は、随行するだろうと思う。ウガンダ側から入手したら、詳細をすぐに知らせる。

3 大統領は昨晚、女王宛ての書簡に加えて、首相宛ての書簡も持たせようと述べていた。大統領がオボス=オフンビを首相に面会させたいという要望は以前になかったので、私としては

TEL NO 1235 (部内秘)のテレグラムで示した見解を繰り返した。あらかじめ予定していないで大臣への面会を直前になって求めるのは、あまりいいやり方とは言えないのだと。

FCO PASS ALL

BRIND

[REPEATED AS REQUESTED]

DEPARTMENT DISTRIBUTION

E. AFR DEPT

PCD

DEF DEPT

OTHER AFRICAN DEPT

MOD(INTERNAL)

CONFIDENTIAL]

(20)機密文書④ IMG_1869 1月6日づけ

受領は1月7日

「IMMEDIATE CONFIDENTIAL

CYPHER/CAT A

FM KAMPALA 06148Z

CONFIDENTIAL

TO IMMEDIATE MONGOROVIA TEL NO
1 OF 6 JANUARY INFO IMMEDIATE TO F
C O.

ウガンダ国防相ロンドン訪問

1 防衛相オボス=オフンビがロンドンに渡航する可能性が出てきた。ロンドンのほうは現在思案中だが、1月10日到着の正式な公賓として迎えるように手配するつもりだ。招待状は私が受け取る前に大臣がモンロヴィアに向けて出発したためにお渡しできていない。私は招待のことを大統領にお話しし、大統領はオボス=オフンビを行かせたいと述べた。大統領との会話で、オボス=オフンビがモンロヴィアからいつ戻るのか定かでないこと、また次の週にロンドンにいくことになっていることを知らないかもしれない、ということが分かった。大統領は私があるあなたを通じてオボス=オフンビと連絡を取ることを認めた。

2 オボス=オフンビと話して、以下のことを伝えてほしい。

(A) 1月10日到着予定で大英帝国公賓としての招待となっていること。

(B) 大統領とお話しして大統領の意向で彼が行くことになっていること。」

2枚目 IMG_1870

「(C)遅くとも1月10日にロンドンに出発するために、1月8日にウガンダに帰ってきてほしいと大統領はお考えであること。旅程の関係で無理ならモンロヴィアからロンドンに直行することもやむを得ないが、もしできればウガンダ

に一度帰ってきてほしいと大統領が考えている
ということ。

F C O PASS IMMEDIATE MONROVIA
BRIND
[REPEATED AS REQUESTED]
DEPARTMENTAL DISTRIBUTION
EAD
P & CD
DEFENCE D
OTHER AFRICAN DEPTS
MOD (INT)
CONFIDENTIAL]

(21)機密文書③IMG_1871 12月31日づけ
受領は1月7日

「Foreign and Commonwealth Office

London S. W. 1

1971年12月31日

ウガンダ大統領は、カンパラの高等弁務官
(High Commissioner) の代行に対し、国防大
臣、オボス＝オフンビ氏を1月中旬にロンドン
に派遣したいと述べた。主な訪問の目的は、10
月のウガンダの独立記念式典に女王を招待する
招待状をお渡ししたいということ。しかし大臣
は併せて制服の支給、サラディン軍用車などに
についても協議したい意向だ。

私たちはこのオボス＝オフンビ氏の訪問を1
月10日、つまり週の初めの月曜日から公賓とし
て待遇することを提案する。この日程について
はすでに事務方では話がついている。防衛省次
官は外遊中だが、それ以外の閣僚は、11日12日
の火・水は、お相手できるだろうとのことだ。
1月11日にロシアン卿が、招待状を受け取るた
めにお会いするだろう。

このような手配で問題がないことを祈る。

R. C. Mottram, Esq.,
Ministry of Defence
S.W.1.
CONFIDENTIAL

F C O PASS IMMEDIATE MONROVIA
BRIND
[REPEATED AS REQUESTED]
DEPARTMENTAL DISTRIBUTION
EAD
P & CD
DEFENCE D
OTHER AFRICAN DEPTS
MOD (INT)
CONFIDENTIAL]

(22)文書② IMG_1872 12月31日づけ 1
月7日受領

「Foreign and Commonwealth Office

London S. W. 1

1971年12月31日

ウガンダ大統領は、カンパラの高等弁務官
(High Commissioner) の代行に対し、国防大
臣、オボス＝オフンビ氏を1月中旬にロンドン
に派遣したいと述べた。主な訪問の目的は、10
月のウガンダの独立記念式典に女王を招待する
招待状をお渡ししたいということ。しかし大臣
は併せて国防についても協議を希望している。

慣例に倣い、1月10日月曜日から13日木曜日
まで、公賓としてお迎えすることとしたい。

この招待についてそちらの大臣にとっても承
知していただけると幸いです。

(P.H.Grattan)

W.J.M/ Paterson, Esq., CMG.,
Government Hospitality Fund,
2 Carlton Gardens,
SW1」

(23)機密文書① 受領1月4日

1 枚目 IMG_1873

「CONFIDENTIAL

Mr Le Quesne

PS to Lord Lothian

Private Secretary

問題 (Problem)

大統領アミンは、カンパラの高等弁務官代行に対し、国防大臣であるオボス=オフンビ氏を1月中旬に3日間ほどの予定でロンドンに派遣したいと伝えてきた。目的は、

a (できれば直接に拝謁して) 1972年10月に行われるウガンダ独立10周年記念式典に招待する招待状をお渡ししたい、ということと、

b 制服の支給やサラディン軍用車などの国防についての協議をしたい、ということである。

論点 (Argument)

2 アミン大統領は、11月25日の時点で、招待状を準備し、それを届けるために国防大臣を派遣することを考えていると、高等弁務官代行に対して述べた。。11月26日の時点で、女王がかかる招待を受けることは困難だということは指摘してある。当然のことだが、女王のスケジュールはかなり前から調整されるものであり、1972年についてはすでに埋まっている。実際に10月のどの時期かにドイツから大統領が国賓として来られる際にお迎えする予定もあったようである。したがって女王が記念式典に参列することは不可能なようにも思われるし、よしんば可能であったとしても、私たちはそれをお薦め

することはできない。

3 女王は2月上旬までロンドンを留守にし、Sandringhamにいる。そこでならば、ほとんどない可能性だが、国防大臣が女王に拝謁する機会があるかもしれない。さらに、女王からの返事が招待状を受けられないものであるとしても、それは直接拝謁の場所で伝えないほうがいいだろう。」

2 枚目 IMG_1874

「4 さらに、私たちは大臣の訪問を歓迎する。とくに(わずか3日間では十分に目的を果たせないだろうが) 大臣は細かい国防関係の商談を持って来るだろうということもある。キャリントン卿は1月中旬は極東にいて留守だが、国防省では、非公式ながら、国防担当大臣のバルニール卿が、国防省次官としてオボス=オフンビ氏の表敬訪問を受けることができるだろうとしている。国防兵站省のギルモア氏(※手書きで修正されているがもとは陸軍の政務次官補のGeodffrey Hohnson Smithの名が打たれていた)も、ことによるとさらなる協議に参加できるだろうとのことである。

5 女王への正式な招待状は、国を代表してFCOの大臣、なかでもロシアン卿が受け取るのが最もいいだろう。高等弁務官代行は、この機をとらえてわれわれのウガンダ財政危機への懸念を、アミン大統領に近い国防大臣に知ってもらうことを推奨している。このこともFCO大臣にしてもらうのが適当だろう。

6 しかしロシアン卿は、1月12日水曜日から南部アフリカの外遊予定があり、オボス=オフンビ氏をお迎えすることができるのは、週の初めだけである。10日月曜日から始まる週にはオボス=オフンビ氏に到着しておいていただいて

週の初めに用務を果たしてもらうのが最も適当なように思われる。国防省からもその日程が彼らにとって都合がよいということはすでに伝えである。

7 英連邦からの訪問は慣例で公賓として遇することになっている。外交儀礼関係部門および会議関係部門は、公賓に対する招待接待費の約束にそってすすめていただきたい。

8 推奨 (Recommendation)

以下のことを推奨する。」

3枚目 IMG_1875

「a Mr Mayallは、宮殿に手紙を書くべきである。この招待状のことを説明して、女王のスケジュールはいっばいで招待に応じられないこと、また、拝謁も難しいこと、代わりにロシアン卿が招待状を受け取ることなどを確認されたい。草稿は添付してある。

b 貴事務所は、国防省に手紙を書くべきである。1月10日に始まる週のはじめの訪問が国防省の関係大臣もオボス＝オフンビを迎えるのに都合がいいということを公式的に確認するためである。草稿は添付してある。

c 高等弁務官代行は、国防大臣を公賓としてお迎えする準備をするべきである。ロンドンの滞在は10日から12日だが、9日日曜日の夕方の到着になるかもしれない。テレグラムの草稿を添付した。

d 貴事務所は、公式的にGHFの事務所にこの訪問について書面を送るべきである。草稿は添付してある。

9 外交及び会議部門は、軌を一にしてあたってほしい。

E G Le Tocq
East African Department

31 December 1971

Copy to:

Mr Mayall(Protocol and Conference
Department)」

(24)草稿1通目 手紙 IMG_1876

「DRAFT LETTER Type1 +

From A L MAYALL

To: - Sir Michael Adeane

ウガンダ大統領は、カンパラの高等弁務官代行に対し、国防大臣のオボス＝オフンビ氏をロンドンに派遣したいと申し出ている。1972年10月に予定されているウガンダ独立(10月9日)10周年記念の式典に対する招待状を女王に届けるためである。

現在の公務の状況から考えて、女王にそのような招待に応じる可能性はないと思われる。よしんばあったとしてもFCOの次官が招待を受けることを推奨するとは思われない。

ウガンダ側は間違いなく、招待状を携えたオボス＝オフンビ氏を女王直接の拝謁を希望してくるであろう。大臣訪問時に女王はロンドンにいないので、それは現実的ではない。さらに、その招待状には応じられないであろうということもあって、最も適当なのはFCOの大臣が女王の代理として受け取ることなのではないかと思う。

この双方の点、つまり女王が招待に応じられないということと、招待状はFCOの大臣が推奨どおり受け取るということについてご理解いただけるとありがたい。」

2枚目 IMG_1877

「もし女王が招待をお断りになるとお決めになったら、その大統領アミンに対してその判断

をどう伝えるか、伝え方などについて、またご連絡差し上げるつもりである。」

(25)草稿2通目 機密文書 IMG_1978

「DRAFT CONFIDENTIAL

From PRIVATE SECRETARY

To:- Private Secretary

MINISTRY OF DEFENCE

ウガンダ大統領は、カンパラの高等弁務官代行に対し、国防大臣をロンドンに派遣したいと申し出ている。1972年10月に予定されているウガンダ独立10周年記念の式典に対する招待状を女王に届けるためである。しかし大臣は軍服の支給やサラディン式の軍用車など、国防関係の協議も希望している。

2 私たちは、1月10日月曜日に始まる週のはじめにオボス=オフンビ氏を我が国公賓として招待することを提案した。事務的にはこの日程については協議がすすんでいる。国防担当次官は国外にいることは承知しているが、その他の大臣にできるだけ火曜日、11日水曜日、12日木曜日とオボス=オフンビ氏をお迎えする時間を作っていただきたい。ロシアン卿には、11日の午後に、女王への招待状をうけとっていただきたいと思う。

3 以上に提案した手配についてご同意をいただけますと幸いです。」

(26)草稿3通目 手紙 IMG_1879

「DRAFT LETTER

From PRIVATE SECRETARY

To:- W J M Paterson Esq CMG

Secretary of the Government HGospitality Fund.

ウガンダ大統領は、国防大臣を1月中旬にロ

ンドンに派遣したいと申し出ている。10月に予定されているウガンダ独立10周年記念の式典に対する招待状を女王に届けるためである。しかし大臣は国防関係の協議も希望している。

慣例に従って、大臣を公賓としてお迎えしたい。提案される日程は、1月10日月曜日から、1月12日水曜日12日木曜日まで（※手書きで12日を消している。）」

(27)草稿3通目 テレグラム草稿

1枚目 IMG_1880 (図7)

「Security classification-if any CONFIDENTIAL
Adress to KAMPALA

Your tel no 1449.

国防大臣の訪問

1月10日から公賓としてお迎えする招待状を国防大臣にお渡しください。

2 女王は1月いっぱいロンドンにおられないので、拝謁は困難であろうと思われます（手書きで表現を弱めている）。

3 キャリントン卿も、海外にいますが、彼の副国防兵站相、バルニール卿が1月11日と12日には、オボス=オフンビ氏をお迎えいたします。

4 ロシアン卿は1月11日の午後大臣にお目にかかる予定です。ロシアン卿は、女王の代理としてオボス=オフンビ氏がお持ちになった招待状を受け取る準備をしております。」

2枚目 IMG_1881

「5 ここだけのお話ですが、女王はおそらく招待をお受けすることはできないでしょう。

6 大臣に誰が随行されるか、情報をすぐに教えていただけますと助かります。」

手書きで配布先が記録されている。

Department of EAD, PCD, Defence、コピーは、MOD Internalとされている。これらそれぞれの文書が配布されている先も興味深い。

3 分析と今後の展望

一連の文書の検討作業を通じて、様々な部署が関係しながら、ひとつの公式的な訪問の接待がアレンジされていくプロセスを跡付けることができた。ウガンダ側のわがままな日程の要望にも応じていく半面、後ろで流れていく機密文書の中身は、非常に深い政治とビジネスの思惑と戦略にあふれている。また、時間がないなか、できることとできないことを分類しつつ、相手の印象を害しないように配慮する様子もビビッドに窺われる。

文書によっては、日付がないものもある。テレグラムも日付不明もないわけではない。テレグラムの多くには、受領印が押されているが、これはどうもアーカイヴへの受付を示すもので、本稿の主旨に関していえばあまり意味はなさそうだ。事実、例えば受領印は1月7日と11日に集中しているが、文書によってはこのタイミングでこの情報が伝わったのでは遅すぎるようなものもある。また、本稿では試みなかったが、それぞれの配布先を検討することによって、どの情報がどこに流れているのか検討する作業も可能であろうと思われる。

また、こうした機密文書の機密の程度にも注目される。最後に綴じられているファイルを見ればわかるのだが(図7)、Security classificationには4段階ある。いわゆるトップ・シークレットから、シークレット、コンフィデンシャル、リストリクテド、アンクラシファイドに分けられる。ここには、シークレットが一通混じっているが、ほとんどはコンフィデンシャルどまり

であり、機密の程度が上の、まだ開示されていない情報があることがうかがわれる。アミンから首相宛ての書簡②などは、トップ・シークレットであり、おそらくまだ開示されていないのであろう。

ここでみた資料では、ウガンダ側の軍備増強の要望がまとめられていると同時にその財政難が指摘され、同時に他からの援助に基づくにせよ一千万ポンドにも及ぶ軍需予算が実現すれば、英国の産業に利することになるだろうとも述べる。また、現在の購入についてはできるだけ努力するようにとの部署での職掌を考慮したうえでの政治判断が示されている。とくに「そうしなければ、彼らはよそからそれを手に入れるだけであり、ウガンダの対外債務の改善に対しても何の貢献にもならないからである。」(②文書 IMG_1810~1813 2月2日づけ)という部分はのちにウガンダ空軍がソ連からミグを調達することになった事実と照らしてみると、ことさら深い洞察を含んでいる。

今回は、資料紹介という意味もあって生の資料がそのまま提出されており、十分な解釈が付与できたとはいいがたい。前稿(梅屋 2016a)そして未発表の遺品と併せて今後、より一層詳細な検討がなされうるしなされるべき資料だと思われる。

おわりに

前稿(梅屋2016a)で私は「イギリス側の公的資料から明らかになる部分もある」(梅屋 2016a: 125)と示唆しておいた。本稿ではイギリス側の公文書をもって前稿で扱った資料を裏づけ、一部の間違いを正すことができたことになる。その意味では、計画通りの作業でもあった。

ここで見た文書では表面上一貫して、ウガンダの経済状況から考えて兵器の購入は現実的でない、という立場が貫かれていることがうかがわれるが、その後の現実の展開を考えるといささか皮肉めいて見える。というのも、前項で触れた政治判断を裏づけるように、その後イギリスからウガンダへは、15台のフェレット装甲車と36台のサラディン軍用車総額1千万ポンドの供給がなされているというのが歴史的事実としてあるからである。ダグラス=ヒュームと、キャリントン卿は、フランスがミラージュを提示してきたために、ハリヤーについては判断を覆したとされる¹⁹。その後もアミンのハリヤーへのこだわりはあちこちで示されたようだ²⁰。その後、1977年にはCrown Agentsとの密接な繋がりのもと大量の兵器をあつらえたことが明らかにになっている²¹。

肝心のオボス=オフンビについても、本稿の資料により、外遊日程が公的に明確になったほか、新情報もあった。オボス=オフンビの履歴について、1969年11月から国防相次官に就任した、という情報は新発見である。アミンとともにインドを外遊したのが、1969年と特定できたことも収穫だった。本資料のバイオグラフィにある、1969年のインド、ソ連、チェコスロバキアというアミンとの外遊がアミンとの関係、そしてオボス=オフンビのその後を大きく決定づけたとみられる。そのいくつかは現在電子化して保持している遺品にも含まれているので、今

後また公開していく予定である。

前稿(梅屋2016a)で扱ったF I (映像資料)において、工場視察の前にエンドロールが置かれていた理由もよくわかった。前稿では、軍事機密ではないかと考えていたが(梅屋2016a: 124)、そうではなく、2日目のエンドロールまでが公賓としての滞在であり、残りの日程の工場見学はあくまでもプライベートなことであり、今回紹介した文書は語ってくれている。

また、アミン大統領からエリザベス女王に宛てた書簡の内容についても、前稿(梅屋2016a: 124)で予想したように、クーデターについての説明ではなくて(前稿執筆時は、この訪問を1971年と考えていたのでそう推測したのだが)、女王宛ての書簡は、独立記念式典への招待が目的であり、首相宛ての書簡には、債務繰り延べ申し込みが記載されているらしい(番号は㊟とつけられているがこのファイルに除かれているので)ということも判明した。

ポストコロニアルとは、植民地支配が終わって植民地各国が独立したからハッピーな世界が広がっているのではなくて、むしろその支配従属関係がかたちを変えて維持されているというアイロニーを意味するのは常識であるが、この資料に見るいくつかの事実はそれを確認するのに十分であった。

いかに外交の形をとって巧妙に債務を負わせるか、その戦略の一端がうかがわれるといえうがちすぎだろうか。

今後も、さらなる遺品との対応関係を見ながら、緻密にウガンダ現代史を再構成する作業が残されている。

謝辞

本研究は以下の助成を受けて成立したもので

¹⁹ Peter Day 'Idi Amin's shopping spree,' Telegraph, <https://www.telegraph.co.uk/news/uknews/1380046/Idi-Amins-shopping-sprees.html> [2019年10月31日閲覧]

²⁰ 'Idi Amin,' Telegraph, <https://www.telegraph.co.uk/news/obituaries/1439131/Idi-Amin.html> [2019年10月31日閲覧]

²¹ 'Uganda: How the West brought Idi Amin to power' Links International Journal of Socialist Renewal, <http://links.org.au/node/2784> [2019年10月31日閲覧]

ある。JSPS科研費22401040、23242055、24520912、15K03042、16H05664、16K04126、19H04354、19H01400、令和元年～令和2年度二国間交流事業「自然災害人的災害に対するレジリエンスの研究－日本とアフリカの民族誌から」、平成30～令和2年度JSPS研究拠点形成事業「日欧亜におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成」、令和元年度神戸大学国際文化科学研究科研究推進センタープロジェクト「シティズンシップ概念の地域的展開と理論的展開に関する共同研究」。

参考文献

- Butler, D. and Gareth Butler (eds.),
2000, *Twentieth-Century British Political Facts 1900-2000, Eighth Edition*, London: Macmillan Press.
- Ingham, Kenneth,
1994, *Obote: A Political Biography*, London: Routledge.
- 野口 悠紀雄,
1993, 『「超」整理法—情報検索と発想の新システム』中公新書。
- 梅屋 潔,
2011, 「ある遺品整理の顛末—ウガンダ東部トロロ県A・C・K・オボス＝オフンビの場合」『国立歴史民俗博物館研究報告』169集、209-240頁。
- 2016a, 「ウガンダ元大統領代行、故オボス＝オフンビの遺品(Ⅰ)—1971年英国外遊時のアルバムを中心として」『人間情報学研究』第21巻、117-135頁。
- 2016b, 「福音を説くウィッチーウガンダ東部アドラにおける民族誌的研究」『人間情報学研究』第21巻、1-18頁。
- 2018, 『福音を説くウィッチーウガンダ・パドラにおける「災因論」の民族誌』風響社。
- Umeya, Kiyoshi,
2019a, 'Reflexive Accounts on Uganda General Election 2016: The Agency of the Dead and Its Effect among Western Nilotes,' In *Citizenship in Motion: South African and Japanese Scholars in Conversation*, edited by Itsuhuihiro Hazama, Kiyoshi Umeya and Francis B. Nyamnjoh, pp. 179-201, Bamenda: Langaa RPCIG.
- 2019b, 'What is the Source of Power?: A Case of the Evangelized Witch in Eastern Uganda,' 『国際文化学研究』第52号、29-52頁。
- 2020, 'The Gospel Sounds like the Witches' Spell: Ethnographic Accounts of Jopadhola, Eastern Uganda' 『近代』120号、1-44頁。
- Wilson, E. G. (ed.),
1963-1964, *Who's Who in East Africa*, Nairobi: Marco Surveys.

図1 FCO31/1423ファイルの表紙面
IMG_1796

図2 最初のカバーページ IMG_1798

図3 カバーページの次の手紙 IMG_1799

図4 IMG_1800 1972年4月7日づけ
13日受領

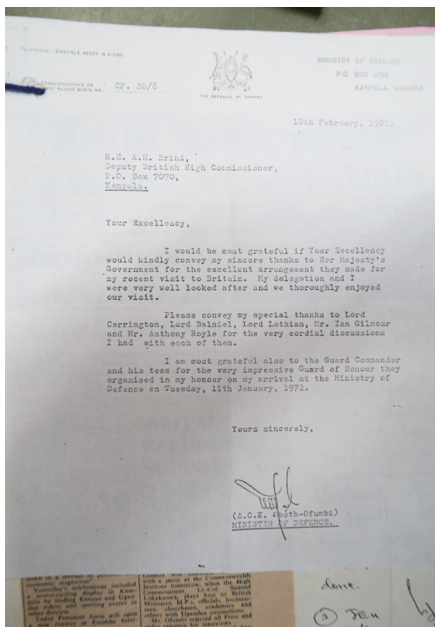


図5 オボス=オフンビからの礼状
IMG_1806

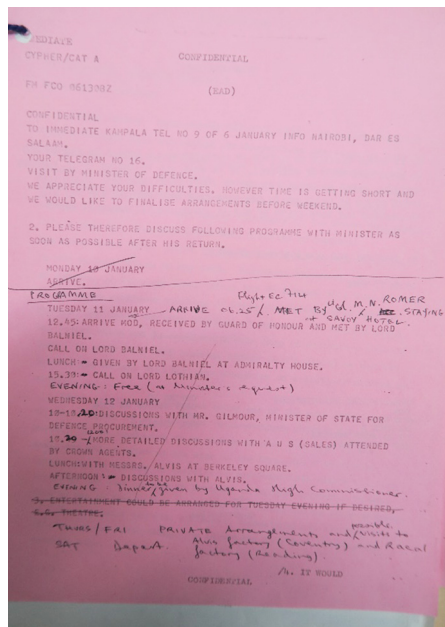


図6 FM FCO 061308Z IMG_1860

DEPARTMENT: (each endorsement)

SECURITY CLASSIFICATION: ☐ Top Secret ☐ Secret ☐ Confidential ☐ Unclassified

PRIORITY MARKINGS: (Date) ☐ Rush ☐ Immediate ☐ Routine

Despatched: ☐ Yes ☐ No

EMERGENCY HANDLING: ☐ In Confidence ☐ In Plain ☐ Code ☐ Cipher

Security classification: ☐ If any ☐ CONFIDENTIAL

Priority marking: ☐ If any

Code word: ☐ If any

Addressed to: KAMPALA

Telegram No. (date)

And to: repeated for information to

Sending to: Your tel. no. 1049.

Repeat to: VISIT BY MINISTER OF DEFENCE

Please pass invitation to Minister of Defence to visit London as guest of EMO arriving on Monday 10 January.

2. The Queen will be out of London for the whole of January and it will not therefore be possible to arrange an audience.

3. Lord Carrington will also be out of the country. However, Lord Balmiel, his deputy, and the Secretary of State (Mr. Gilmour) will be available to receive Mr Outh-Ombi on 11 and 12 January to discuss defence matters.

4. Lord Latham would be pleased to see the Minister on the afternoon of 11 January and to receive on Her Majesty's behalf the invitation Mr Outh-Ombi is carrying.

NOTHING TO BE WRITTEN IN THE MARGIN

by: (Signature) EAD p.c.b. Defence

Copies to: (Signature) Mr. Gilmour

図7 草稿3通目 テレグラム草稿1枚目
IMG_1880